

社会工学類

College of Policy and Planning Sciences

- 学士（社会工学）
- Bachelor of Policy and Planning Sciences

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間行動が複雑に絡み合う社会的諸問題を工学的・実践的・戦略的に分析するために必要な文理融合型思考能力とデータ分析・活用能力を持ち、総合的な問題解決のためのシステムを設計できる人材を養成します。

養成する人材像	金融・保険、情報・通信、商社・流通、建設・不動産、製造、エネルギー、システム、リスクなどの多様な分野で、「社会問題×数理的アプローチ＝ソリューション力」をコンセプトに、複雑化・多様化する世界において社会問題のメカニズムを科学的・客観的に理解し、新たなより良い社会システムを提案できる人材
卒業後の進路	<p>卒業生の約 2/3 が大学院に進学し、その約 6% が博士後期課程に進んでいます。大学院修了者も含め、企業・団体、公務員、教員など、国内外で広く活躍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 筑波大学大学院（システム情報工学研究群） - 他大学大学院 - 金融・保険 - 商社・流通 - 調査・コンサルティング - 情報・通信 - 建設・不動産 - サービス - 製造 - 化学 - エネルギー - 官庁・自治体

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（社会工学）の学位を授与します。

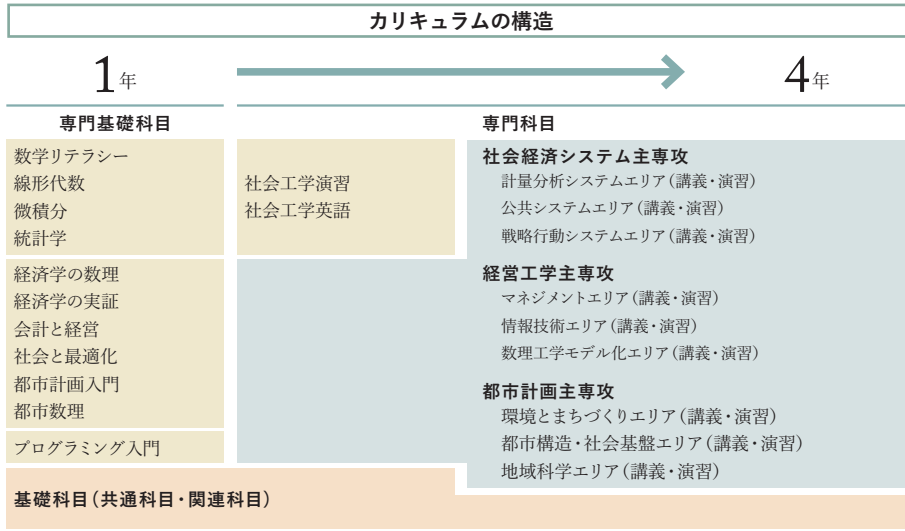
知識・能力（専門コンピテンス）	1. 社会システムの基礎的理解と洞察力	経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するためにエビデンスに基づいた具体的政策を提言することができる。
	2. 複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術	複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学（微積分・線形代数）・統計学（データ解析）・情報技術（プログラミング）に関する知識をツールとして用いることができる。
	3. グローバル課題の分析能力	現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。
	4. 社会的要請への対応力	経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。
	5. コミュニケーション・スキル	客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。
	6. 課題探求能力	主体的に課題を探求し、自主的・継続的に学習することができる。
学修成果の評価に関する方針	<p>学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示しています。これらの科目の単位取得状況に基づき、コンピテンスの達成状況を達成度を測定しています。</p> <p>学位授与の評価は学修成果の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文および最終発表等を通じて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを複数の教員により評価します。</p>	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（社会工学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の 編成方針</p>	<p>総合的な方針</p> <p>現代社会が直面する複雑・多様な諸問題は、もはや伝統的な学問の個別領域が単独で解決することが困難となってきています。このような現状に対処するため、社会経済システム・経営工学・都市計画の3つの主専攻分野を設け、政府・地方自治体・企業組織・地域社会が策定する政策や計画の決定過程における科学性・実証性を重視し、専門性と学際性の両面に優れた能力を身に付けられることを目標としています。このため、入学時には主専攻を決めず、2年次春学期の履修を踏まえた上で、2年次秋学期に自己の専門性を高めるための主専攻を決める仕組みとしています。また主専攻に加えて副専攻の選択も可能としています。</p> <p>コンピテンスと対応する科目区分や科目群、主要科目等</p> <p>社会システムの基礎的理解と洞察力については、数学・プログラミングなどに係る専門基礎科目や様々な専門科目を修め、これらの知識を応用して社会システムの基礎的理解と洞察力を身につけます。複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術については、数学・プログラミングなどに係る専門基礎科目の他、各主専攻の様々な演習科目を修めることを通じて、複雑な社会が直面する諸問題を解決するための数学・統計学・情報技術に関する知識を身につけます。</p> <p>グローバル課題の分析能力については、現在の社会経済状況や経営問題、環境問題を扱う各主専攻の専門科目を修め、これらの知識を応用して、現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極める力を身につけます。</p> <p>社会的要請への対応力については、実践的課題を扱う各主専攻の専門科目や、様々な演習科目を修めることで、多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応する力を身につけます。</p> <p>コミュニケーション・スキルについては、社会工学英語や各主専攻の様々な演習科目を修めることで、客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを身につけます。</p> <p>課題探求能力については、社会工学演習や他の問題解決型の演習、卒業研究に取り組むことで、主体的に課題を探求し、自主的・継続的に学習する力を身につけます。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2年次春学期までは主として当学類の専門科目を学ぶために必要な専門基礎科目を履修します。その中には3主専攻の専門科目への入門的な性格を持つものも含まれています。 - 2年次秋学期から主専攻に所属し、専門科目を履修します。専門領域の構造を分かり易く示すために、各主専攻の専門科目をエリアという科目群に分けて、学生が学際的な専門性を身につけることを奨励しています。さらに、成績優秀者の場合、3年次で卒業が可能なプログラムとなっています。 - 4年次進級後、1年間を通して卒業研究を行います。工学、経済学、経営学、統計学、心理学、社会学など多彩な専門分野の研究者の中から指導教員を選び、理論的・実践的な研究を行います。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各主専攻の全エリアに演習を開設し、学生が主体的に理論と実践の学習に取り組めるように工夫しています。また、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを演習を通じて徹底的に訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。
-----------------------	--

学修の方法 特色的な教育	<p>－ 実社会が直面する諸問題について政府・地方自治体・企業組織・地域社会と連携した問題解決型の学修機会を設けています。また、各主専攻の特性に応じたデータ分析・活用の演習を設けており、実践的なデータ活用人材を育成するための基盤が整っています。</p>
-------------------------	--



入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	<p>社会・経済、企業・経営、都市・地域において生起する多種多様な社会問題を認識し対処するために必要な学際的思考力を修得し、国際社会に貢献できることを希望する人材。</p>	
入学者選抜方針	個別学力検査等前期日程	<p>数学と外国語の基礎学力とともに、高等学校における国語・社会・理科の学習内容の理解度を評価して選抜します。</p>
	個別学力検査等後期日程	<p>高等学校における学習内容の理解度とともに、現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価して選抜します。</p>
	推薦入試	<p>高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。</p>
	国際バカロレア特別入試	<p>数学の基礎学力を有し、国際的な経験を通して広い視野を持ち、一連の学習活動を主体的に行うことのできる明確な目的意識と勉学意欲を持つ人材を選抜します。</p>
	外国学校経験者特別入試	<p>第1種) 広い視野を持ち、入学後の学習に必要な基礎学力・日本語能力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。社会の出来事や課題についての関心度、論理的・数理的的分析力、表現能力を総合的に評価します。 第2種) 高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。</p>
編入学試験	<p>社会工学における専門的知識を修得できる基礎学力と勉学意欲、社会工学に対する強い関心と論理的・数理的的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。</p>	

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<p>クラス担任、クラス連絡委員、主専攻ごとのカリキュラム委員が積極的に学生の支援を行っています。数学については基礎的な内容を教授するリメディアル科目を提供して、学修支援を行っています。コンピテンスの達成度評価を主専攻配属時や卒業研究着手時に行っており、評価結果をもとに適切な学修支援を行っています。様々な講義、演習を通じてプレゼンテーションやディスカッションのスキルを訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。</p>
<p>学生同士の交流機会</p>	<p>1・2年次は主にクラスでの活動を通して学生同士の交流を深めています。3・4年次は主専攻ごとに学生同士の交流を深めています。また多くの演習科目でグループワークを導入しています。社会工学演習では分野の異なる教員が社会工学の基礎となる考え方を教授するとともに、グループワークを行うことで学生通しの結びつきも強くなっています。</p>
<p>教員との交流機会</p>	<p>学生と教員との意見交換会を学期ごとに1回程度開催しています。他にも主専攻ごとに教員との交流機会を設けています。また卒業生との交流も盛んであり、毎年開催している筑波社会工学会は学生、教員、卒業生が交流する場になっています。</p>

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 各授業科目のシラバスにて、授業概要・学修成果目標・コンピテンスとの関連・授業計画などを明示し、修得できる知識・能力を学生が意識できるようにしています。成績評価方法についてもシラバスにて公開し、客観的な成績評価により、卒業時まで習得する専門性と学際性の水準を保証しています。
- 全学共通の内容に加え独自の内容を含む授業評価アンケートをすべての科目に対して実施し、アンケート結果や学生のコメントをフィードバックするなどにより、教育の質を改善する機会を設けています。
- 授業の内容充実と方法改善のために、全学でのファカルティディベロップメント（FD）活動の利用に加え、学生との意見交換会の定期的な開催、同窓会のイベントなどを利用した卒業研究へ社会人の目線からフィードバックを受ける機会の設定など、FDに努めています。
- カリキュラム委員会において学修成果の評価結果を分析・検討し、教育の質の継続的な向上に努めています。
- 教学マネジメント委員会において、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施し、研修会を開催するなどして教育の質を保証し、社会工学類の目的達成に向けた体制を強化しています。
- 学生と教員が直接意見を交わす場としてクラス連絡会を実施し、全教員が参加する教育会議において、学生からの要望や意見への対応方針を検討し、改善に取り組んでいます。

